

89)が主であり、海氷の研究は終わりの3年間('89, '90, '91)が主である。広域気象観測は89年が、大気微量成分のモニタリングは'88, '89年が、氷床コアの研究は'89

年が主となっている。表の右側に大体的な予定を示している。

第24期 第5回常任理事会議事録

日時 昭和62年2月25日(水) 13:30~17:35
場所 気象庁観測部会議室
出席者 山元、関口、浅井、中村、重原、山川、村上、
荒川、土屋、松野

議事

A. 報告事項

〔学会賞〕

2月14日(土)学会賞及び藤原賞の合同推薦委員会を開催し、選定規定に従って秋山孝子(気象研究所)、山形俊男(九州大学応用力学研究所)の2名を選び理事長に報告した。これにより規定に従って推薦理由を付して全理事の投票を行う。

なお、担当理事から選考経過の説明があった。選考基準等について実情にありよう今後委員会で検討することとなった。また、技術賞のようなものを関係理事で検討していくこととなった。

〔藤原賞〕

選定規定に従って川口貞男(国立極地研究所)を選び理事長に報告した。これにより規定に従って推薦理由を付して全理事の投票を行う。

なお、担当理事から選考経過の説明があった。

〔奨励金・各賞〕

昭和62年度岡田賞受賞候補者は該当者なし。

〔総合計画〕

- (1) 日本学術会議会員候補者等の選出方法についての全理事による投票結果は賛成多数で承認された。天気に掲載する予定である。
- (2) 日本学術会議第14期会員の選出に係わる学術研究団体の登録を本年6月30日(火)までに行う。
- (3) 登録学術研究団体等との連絡協議会(第1回)が3月4日(水)開催される。
- (4) 日本学術会議から研究動向に関するアンケート調査について依頼があった。
- (5) 日本学術会議では国際学術交流の内規の改正に伴い、加入国際学術団体の見直しを行うこと

になった。日本気象学会関連としては、IUGG, ICSU (WCRP) がある。

〔学術用語〕

本年中に刊行できる予定。

B. 審議事項

1. 昭和62年度予算案について

(1) 会計担当理事から第2次案について説明があり、この案を全理事に送付して意見を伺うことが了承された。

(2) 昭和62年度の機関誌の印刷業者は印刷請負入札の結果にもとづき、「天気」は三報社、「気象集誌」は学術図書に決定した。

(3) 気象集誌特別号の販売については、国内個人会員を除いて(株)ユニバーサル・アカデミー・プレスに一任することが了承された。

2. ゼロックス・コピーのサービスについて

庶務担当理事から説明があり、学会員の便宜をはかるため、事務局にあるゼロックスを使用してコピーのサービスを実施することが承認された。

3. IAMAP の招致について

浅井担当理事から第5回総会の誘致についての経緯について説明があり、第7回総会の招致については、1)新しい情報を入手して検討する、2)今年8月に開催される IUGG の会議に提案しておく等前向きに検討することが了承された。

なお、気象庁の協力が不可欠なので気象庁の意向を伺うこととなった。

4. 日中協力国際学術交流事業について

本年4月中国の成都で開催される International Conference on the General Circulation of East Asia を日中協力国際学術交流事業にする。1名追加し、3名に旅費援助を行う。

なお、日本気象学会も共催とする。

5. 会員の新規加入について

個人会員田尾孝幸ほか12名の新規加入が承認された。